

創刊によせて

日本社会福祉学会中国四国地域ブロック
担当理事・部会長 岡崎 仁 史

皆様。ようやく念願の中国・四国地域ブロック機関誌、Web版「中国・四国社会福祉研究」(Chugoku and Shikoku Journal of Social Welfare)を発行することができました。ひとえに中国・四国地域ブロック運営委員会の機関誌編集委員会(横山正博、長崎和則、岡崎幸友会員)ならびに査読委員の皆さま方、また役員の皆さま方のお力により実現することができました。感謝です。

振り返ってみると、10年ほど前に当時の地域ブロック担当理事・部会長の藤井悟会員(福山平成大学)の時代に一度学会誌を発行しましたが、その後は、検討続きで今日までやって来ました。地域ブロックで機関誌を発行する上での課題は、研究水準の維持、財政、人、物でした。

まず、最大の課題は地域ブロックでの研究水準の維持及びその仕組みであり、いろいろ運営委員会で協議しました。本部学会誌の査読体制は、1論文に2人の査読委員が審査し、評価が分かると第3査読者が読み、最終的には編集委員会で決める方式であり、現在、投稿論文の採択率は約30%です。また、本部理事会での協議では地域ブロックではサポートイブな姿勢で行うことも提案されています。中国・四国地域ブロックには約20名の査読者がいますが、本部学会と同じ査読体制を取り、査読委員には本部学会誌の査読に加えて地域ブロックの査読ボランティアも快く引き受けていただきました。

第2、3は財政と物的課題でしたが、山口県立大学のWeb紀要の実績もありWeb紀要の発行で財政を極力切り詰めることができ、当面長崎和則会員のホームページに正式に間借を依頼しています。本部理事会では日本社会福祉学会の世界戦略(当面アジア・太平洋)を検討しており、世界から広く投稿ができて広く世界に読まれる英語論文のWeb雑誌の発行を検討しています。

第4は人的課題です。査読委員は既述のとおりですが、機関誌発行の実務を行う編集委員会を2011年度に規約を制定し、上記3名が実務をボランティアとして引き受けていただいています。さらに投稿者がいるのかという議論もしましたが、2010年度から私学補助金に教員の研究業績の公表が条件付けられ、査読付き発表の場の確保が必要になり、またこの10年余りに中国・四国地域ブロックにも大学院修士課程、博士課程が設置されて院生・研究者が増えているので、投稿者も増えることを見込んでいます。

いろいろな条件が整ったのでWeb機関誌の発行が実現しましたが、何と言っても編集委員ならびに査読委員の皆さま方の学会に対する貢献があつての実現です。

なお、地域ブロック大会開催校予定は、2012年度吉備国際大学、2013年度徳島文理大学、2014年度広島県東部地域の大学等です。

最後に、18歳人口減少により私学経営難もあり、日本社会福祉学会の会員減少が進み(5000名は維持)、退会者が増えて学会費の滞納が一時1000万円規模にあり、学会の財政を圧迫しています。学会費未納者については、まずご本人が責任を果たし、次いで入会推薦者等お近くの方が声をかけて学会財政を維持して下さるようお願いいたします。